

No.	教材名	分野	制作年度	上映時間(分)	制作	内容
1	ある精肉店のはなし	人権	平成25年	108 (D V D) ダイジェスト版 (21分) あり	やしほ映画社	精肉店を営む家族のドキュメンタリー。 平穏な日々ではあるが、被差別部落ゆえの差別を受けてきた姿も心の中にあった。そして、代々使用してきた屠畜場が102年の歴史に幕を下ろし、精肉店も節目を迎える。
2	みんな笑顔になる日まで	人権	令和6年	30 (D V D) 字幕・副音声あり	東映株式会社	「ヤングケアラー」と「若年性認知症」を描いた作品。 主人公は若年性認知症の父親を持つ中学生で、働く母親の代わりに家事や妹の世話を担っている。家で勉強する時間をとることさえままならず、学校でも人目を避けてうたた寝をするほど負担を強いられていた。
3	誰にも相談できない? ～SOSの出し方を知っておこう～	人権	令和4年	20 (D V D) 字幕・副音声あり	株式会社映学社	「児童・生徒の自殺防止とSOSの出し方」教育シリーズのうち、中学生・高校生向けの作品。生きづらさを抱えている子どもたちに向け、SOSの出し方や、誰かに助けを求める方法など、再現ドラマによる実例を紹介している。
4	SOSが届いたら ～相談にのれる心構え～	人権	令和4年	18 (D V D) 字幕・副音声あり	株式会社映学社	「児童・生徒の自殺防止とSOSの出し方」教育シリーズのうち、指導者・保護者向けの作品。指導者・保護者へSOSの受け止め方や自殺リスクの高い子どもへの対処法を教える。
5	ずっと助けてと叫んでた	人権	令和元年	63 (D V D)	イメージフォレスト	虐待サバイバーほしおか十色さんの手記と支援者の証言で構成したドキュメンタリー。 「子ども時代に受けた性暴力被害」の被害当事者の苦しみを知り、支援のあり方を探る。
6	きこえなかったあの日	人権	令和3年	116 (D V D)	Studio AYA	日本各地で発生したさまざまな災害の中で生活するろう者たちの姿を、東日本大震災を起点に10年間記録したドキュメンタリー。災害に遭い、苦境に立たされたろう者たちと、彼らを支援する福祉避難所や災害ボランティアの様子を映し出す。
7	もうひとつの沖縄戦記	人権	平成14年	30 (D V D)	株式会社Nansei	本編（30分）と資料編の2部構成の平和学習作品。本編では、子どもたちのナレーションで「学童疎開船・対馬丸」「10・10空襲」「沖縄本島上陸」「南部撤退」など13のエピソードを紹介する。 資料編では沖縄戦経緯年表や地図などのほか、戦争体験者4人のインタビュー動画も収録されている。
8	STOP! DV 本当の自分をとりもどす 1巻 DV被害者にならないために	人権	令和5年	29 (D V D)	株式会社 ドラコ	本作はDV加害者の内面を知り、DVが起こる原因を探ることで、DV解決への糸口を見つけることを目的としている。第1巻が「DV被害者にならないために」、第2巻が「DV加害者にならないために」である。
9	STOP! DV 本当の自分をとりもどす 2巻 DV加害者にならないために	人権	令和5年	27 (D V D)	株式会社 ドラコ	本作はDV加害者の内面を知り、DVが起こる原因を探ることで、DV解決への糸口を見つけることを目的としている。第1巻が「DV被害者にならないために」、第2巻が「DV加害者にならないために」である。
10	被差別部落へのまなざし 同和問題認識の近代史	人権	令和6年	40 (D V D)	静岡県人権・地域改善推進会・静岡県人権啓発センター	黒川みどり（静岡大学名誉教授）による同和問題の解説を軸に、静岡大学学生の文献朗読と、守田智（静岡大学教授）のネットワーク科学を用いて、私たちと同和問題との「つながり」を解き明かす。
11	国及び地方公共団体の責務とは らい予防法と無らい県運動	人権	平成30年	52 (D V D)	社会福祉法人 ふれいあい福祉協会	戦前・戦後と続いた「無らい県運動」について、残された行政資料とハンセン病回復者と家族の証言から国・地方公共団体が何をしてきたか明らかにする。そして、国及び地方公共団体が早急に取り組むべき課題について考える。
12	地域で生きる	人権	令和4年	30 (D V D)	大阪府 社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部大阪済生会 ハンセン病回復者支援センター	26歳でハンセン病療養所を退所した森敏治さんは現在79歳。加齢とともにハンセン病による後遺症が進行している。森さんの姿を通して、「ハンセン病問題基本法」における「国及び地方公共団体の責務」を問い合わせ、地域全体で考えるべき課題に迫る。
13	外島保養院から邑久光明園へ 私たちは忘れない伝えたい	人権	令和5年	28 (D V D)	大阪府 社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部大阪済生会 ハンセン病回復者支援センター	「外島保養院」と「邑久光明園」の歴史をたどり、ハンセン病療養所の建設を認めず自分たちの地域からハンセン病患者を追い出すという差別と排除の歴史を浮かび上がらせる。